

2017 年度（平成 29 年度）事業報告書

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia

2017 年度の重点事項の成果

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia（以下、「SSFC」という。）平成 29 年 4 月 19 日に設立した法人である。本年は設立初年度であり、SSFC の基盤づくりに力を入れたが、就学支援、教育環境の改善支援とも、充実した支援活動が行え、手応えを感じた。

また、カンボジア国内での活動が円滑に進むように、カンボジアの法律に従って外務省及び教育省に INGO 登録をした。また、州および学校の理解と協力を得るために話し合いを重ね、基盤作りをした上で支援活動を始めた。日本国内における支援者募集も零からの出発であった。カンボジアでの支援活動の実際をパンフレットやインターネット、「にょにゅむ通信」等で報告し、宣伝活動をして支援者を募集した。

なお、平成 30 年 3 月 8 日に公益認定を取得し、一般社団法人から公益社団法人に移行した。分かれ決算を行っているが、事業報告書は一年間で記載したほうがわかりやすいので、設立から平成 30 年 3 月 31 日までの報告とした。

2017 年度・SSFC がカンボジアで行った支援活動

1 就学支援事業

○カンボジアでは中学 3 年までが義務教育であるが、地方の州では中学 3 年で卒業できる生徒は、中学 1 年入学時生徒の半数に減ってしまう。（住田の 16 年間の調査結果）その原因の多くは貧困であり、「貧困のために中途退学をして、働かざるを得ない現状」がある。

退学する生徒の中には、成績もよく能力もあり勉学意欲がある生徒も少なくない。中途退学した生徒のうち、男子はバタンバン州やタイへ農作業の出稼ぎに行き、女子は縫製工場で働くことが多い。そのような生徒に就学支援をした。

(1)奨学金給付

①貧しいアライン・ランサイ中学校に支援を決定した。生徒、5 人に支援を始

めた

「成績も良く能力もあり勉強意欲もある中学生徒」が中途退学せずに勉強が続けられるように「SSFC 奨学金給付」支援を始めた。

8月に担任と校長の推薦を得て9・10月に本人の面接・家庭状況調査を経て実際の奨学金給付は、カンボジアの新学期である11月から始めた。そのため、支援が決定したアライン・ランサイ中学3年生は、フンセン・スワイトム高校の1年生に入学した。その結果中学生は2人、高校生は3人に支援した。高校生は授業内容も勉強時間も多いため、ノート・ボールペン等、支援内容を中学生より多くした。

②奨学金給付生徒5人の名前

○アライン・ランサイ中学校生徒2人

- ・ピッ・ウィ（中3・女・16才）
- ・ソン・ジューン（中2・女・17才）

○フンセン・スワイトム高校生徒3人

- ・ラバ・ディ（高1・女・16才）
- ・ヌーン・ナイ（高1・女・14才）
- ・サウ・クディ（高1・女・17才）

③奨学金給付生徒5人の家庭環境

□ペップ・ウィ

○家庭環境

母親と妹の3人で生活している。

父親・数年前に家を出て帰ってこない。

母親・野菜や魚の行商をして、1日2,5\$の利益を得てピッ・ウィと妹を養っている。

妹・フランサイ中学2年

家・トタン屋根、ヤシの葉の壁の1間の家。電気は無い。

○一家の収入

畑と田15アールを持っていて、米が年300Kg取れる。8ヶ月間食べられる。

野菜や魚の行商以外に、鶏を飼って売る等して生活費の足しにしているが、生活は苦しい。

○学校の成績と得意科目

クラスの成績は中1から、ずっと1番。中2の中間・期末テスト共1番

得意科目は数学・化学・物理

勉強が好きで、家でも家事の合間に予習復習をする。高校進学を希望している。

○性格

母親が働いているので、食事の準備など家事は進んで行う。田植えの時期は一家の働き手の中心。いつも明るく、笑顔を絶やさない。友達も多い。質問等にもハキハキと答える。

○SSFC の奨学金給付を受けられて、母子ともに大変喜んでいる

□ソン・ジュン

○家庭環境

祖母と姉とソン・ジュンの3人で、祖母の家で住んでいる。姉は18才で、大学に行きたいがお金が無く、農作業をしている。生活費は祖母が出してくれる。両親はいるが、父親は酒乱で姉妹を殴るので一緒に住みたくない、家を出てきた。両親は自分の家売って、他の場所に住んでいる。

○一家の収入

祖母が米と牛を売って生活費を出してくれる。祖母は田を持っていて、年に米が500Kg取れる。牛も3頭買っている。姉とソン・ジュンが田仕事と牛の面倒を見ている。父母は生活費をくれない。

○学校の成績と得意科目

中間テストはクラスで5番。期末テストは7番。

得意科目は物理・地理・国語。畑仕事の合間に、家でも毎日勉強している。

高校進学を希望している。将来はデザイナーになりたい夢を持っている。

○性格

祖母にかわって食事を作り、牛の世話等、家の手伝いを進んで行う。

真面目で掃除なども熱心にするので、誰からも好かれている。友達も多い。

○SSFC の奨学金給付

祖母は学費まで払えないので、大変喜んでいる。高校に進学して欲しいと願っている。

□ラバ・ディ

○家庭環境

父・2011年に強盗に殺された。母・2014年に病死した。兄・お寺に入り生活している。ランサイ中学3年。お寺の支援で学校に通っている。妹小学校3年。

おじさん（父の弟）と祖母、ラバ・ディ、妹の4人で生活している。

○一家の収入

シェムリアップでコックをしているおじさんが生活費を出して

くれるが、足らないのでラバ・ディは英語塾の手伝いをして1ヶ月20\$程稼いでいる。10\$を祖母に渡し、10\$を学費にしている。塾代は先生が無料にしてくれた。

○学校の成績と得意科目

中学時代はクラスで常に1～2番だった。高校は中間試験(1月)の結果がまだ発表されてない。数学・国語が得意。

○性格等

いつも笑顔で明るい。中学では生徒会の副会長をするなど、積極的・意欲的に活動する。学校を休んだことは3年間0日。貧しさにめげない頑張り屋で、ものを大事にする。

○SSFCの奨学金給付

本人は諦めていた高校進学が、奨学金で高校に行けることが決まって、嬉しくて泣いていた。勉強も頑張ることを約束した。叔父も祖母も、ラバ・ディが奨学金で高校に行けることに感謝している。

□ヌーン・ナイ

○家庭環境

シェムリアップで大工をしている。母は家の小さな畑で野菜を育てて売っている。両親は一生懸命働いている。教育にも熱心。5人兄弟の3番目。兄は高校2年・姉は中学3年、小学生の2人の弟妹が居る。

○一家の収入

大工の父は1日に7\$の賃金をもらうが、月に15日～20日しか仕事がない。母が家の畑でクウシン菜を作って1Kg・600リエル(約15円)で売る。24aの田があり、家族で10ヶ月食べられる米がとれる。子どもが多いので生活は楽ではない。姉・兄とヌーン・ナイの塾代は、米を売って払っている。

○学校の成績と得意科目

クラスで4番～6番の間の成績。中学卒業試験はAだった。国語と英語が得意。

○性格等

いつも明るくにこにこしている。畑仕事の手伝いも進んでする。勉強も頑張っている。将来は中学校の先生になりたい。

○SSFCの奨学金給付を受けて

ヌーン・ナイも高校に行けて感謝しています。勉強を頑張らせます。ありがとうございます。(母・チア・ニエー談)

□サウ・クディ

○家庭環境

両親4年前に病死。私を含めて4人の兄弟が居る。足に障害がある兄と姉が2人いる。姉2人はフランスの団体の支援でブノンペンの大学に通っている。おばさんと兄と3人でおばさんの家に住んでいる。

○一家の収入

おばさんが農業をして、ご飯を食べさせてくれる。塾代は、学校の先生が無料にしてくれた。

○学校の成績と得意科目

いつもクラスで2・3番、卒業試験はAの成績。数学・物理・化学が得意。

○性格等

ハキハキと質問に答える。中学3年間の欠席は0日。生活は貧しいが、勉強意欲は旺盛で体も丈夫である。日常の生活態度からは貧しさを感じさせない。

○SSFCの奨学金給付を受けて

おばさんに迷惑をかけたくないので、高校に行かれないかと心配していた。高校の勉強は、今まで以上に頑張ります。将来は、中学の物理・化学の先生になりたい。

④奨学金の給付対象中学生・高校生の条件

- ・成績が優秀で人柄が良く、貧困のために中途退学せざるを得ない生徒
- ・成績は各学級で5番以内、又はそれに準ずる生徒
- ・生徒欠席日数が少ないこと
- ・エイズや結核・肝炎など長期治療を要する病気を持っておらず、健康であること
- ・上記の内容を含め、校長・担任教師が推薦した生徒

⑤給付を受ける生徒の給付期間と選定条件

○給付期間は、1年毎に更新するが、原則として中学3年間支援する。

高校進学に際しての給付はSSFCの定例会で決定する

○真面目で人柄も成績も良く、校長や職員の推薦を受けた生徒

- ・中間・期末試験の成績が学級で5番以内であること
- ・欠席日数が少ないこと（ずる休み・遅刻がないこと）

⑥奨学金給付内容（物品を含む）

○中学生の1年間の給付内容

◇物品の給付

- ・制服上着 2 着スカート 1 着 ・ノート (200P) 15 冊 ・ボールペン青 7 本、赤 2 本 ・コンパス ・物差し ・三角定規 1 組 ・その他必要文房具
- ・米 15Kg/月×12 月=180Kg ・サンダル 2 足

◇支援開始時 ・自転車 1 台 ・鞆 1 個 ・その他必要物品

◇お金の給付

- ・補習代： 5\$/1 教科・1 ヶ月×4 科目×12 月=240\$
- ・生活費： 10\$×9 ヶ月=90\$ (授業のある月だけ支給する)

○高校生に給付する 1 年間の内容

SSFC の奨学金給付を受けた中学生が、高校に進学する場合、奨学金の給付を SSFC の理事会で決定する。

◇物品の給付

- ・制服上着 2 着スカート 1 着 ・ノート (200P) 20 冊 ・ボールペン青 10 本、赤 3 本 ・マーカー 2 組 ・その他必要文房具
- ・米 15Kg/月×12 ヶ月=180Kg ・運動靴 2 足

◇支援開始時 ・自転車 1 台 ・鞆 1 個 ・その他必要物品

◇お金の給付

- ・補習代： 5\$/1 教科・1 ヶ月×12 月=300\$
- ・教科書代 40\$
- ・生活費 10\$×9 ヶ月=90\$ (授業のある月だけ支給する)

⑦1 年間 1 人当たりの必要金額概算 (2017 年度)

- ・中学生：515\$
- ・高校生：618\$

2 教育環境の改善支援

2-1 先生の指導力向上の支援

(1)支援を始めるためのカンボジア政府教育省と教育局州への手続き

○カンボジア政府教育省・教育省大臣・シェムリアップ州知事・教育長・教育局等と面談して、SSFC の指導力向上支援について説明し理解と協力を得た。大臣からは「カンボジアの教育に、今最も大事なことで、何でも協力する。是非やってほしい。」と激励された。

①2017 年 4 月：カンボジア教育省・INGO 担当チャップ・ソポン部長と面談し

支援する州について相談した。SSFC が予定しているシェムリアップ州に同意を得た。

教育大臣がシェムリアップ州知事に連絡をしてくれたので、後の交渉が全てスムーズに進んだ。

②2017 年 6 月 シェムリアップ州知事・教育長と面談して支援の合意と協力を得た。

③2017 年 シェムリアップ州教育長・副教育長と支援の細部にわたって話合い了解と 協力を得た。

④2017 年 校長と職員が指導力向上に意欲のある学校として SSFC が支援を予定しているアラインランサイ中学校について同意を得た。

⑤2017 年 アラインランサイ中学校を訪問して、SSFC の支援内容を校長と副校長や全ての先生に説明して、研究を進めることの賛同を得た。

(2)2017 年度・SSFC 支援校を、シェムリアップ州アライン・ランサイ中学校に決定した。

①決定した理由

- ・校長が何事においても意欲的で、学校経営がよく、先生を掌握している。
- ・先生の年齢が 20 代 人・30 代前半人と若く、新しい事に意欲的に取り組む。
- ・校長・ノッ・サバー副校長・先生全員で話し合い、SSFC の指導力向上支援を受けることを決定した。

(3)SSFC はアライン・ランサイ中学の先生に「指導力向上のための指導」を以下の内容で行った。

■ 研究テーマ「生徒によく分かる授業の仕方」

研究テーマ設定の理由

先生の指導力の向上が急務である。以下のカンボジアの教育の現状から、上記の研究テーマを設定した。

- ① 師範学校を出た先生でも「生徒がよくわかる授業」「生徒の学力を向上させ、身に付けさせる授業」を「実践している先生は、ほとんどいない」と言っても過言ではない。
- ② 学校の授業は自習が多い。先生は授業の始めに、口頭又は黒板に課題を書いて「○ページを読んで、分かったことをノートに書きなさい。」と生徒に指示し、自習をさせる。先生が解答したり教える事をしない。
- ③ 校長の許可を得て授業参観をしていると、先生に教える内容の知識が少なく、話すことや教えることが直ぐに無くなってしまい、先生もボーとしていることが多い。その原因としては授業前に●教えることを勉強していな

い●1時間の授業計画を立てていない●生徒に分かるように教える意欲がない、等があげられる。

- ④ カンボジアの教育省は、外国の支援を得て、先生が授業を進めるための先生用の指導教科書「1時間の授業の流れ（始めに出席をとるから始まり・1時間毎に、授業で教える内容が書いてある）」を全教科作って、学校に配布した。（作成年度は2010年頃・チャップ・ソポン部長の記憶による）それすら読まずに授業に臨む先生が多い。
- ⑤ 生徒に教えている先生の声が聞こえる教室もある。そこでは多くの生徒が授業に集中している。グループ学習を授業に取り入れている先生もいる。課題を与えて、解答を黒板に書かせているが、資料は教科書しかないので、解答は1つである。図鑑や掛け図等、資料がないので、資料を元に意見を出し合い討論し、生徒同士高め合い、考える力を養う事が出来ない。
- ⑥ 授業のまとめに、今日の授業で教えたことを覚えさせる事もしていない。終業の鐘が鳴ると授業は終わりである。宿題を出す先生もいるが、答え合わせもしないので、多くの生徒はやってこない。

（上記はカンボジア外務省 INGO 担当部長・元中学校教師の話と18年間住田がカンボジアの小中学校を調査に行き、実際に見た授業から）

◎カンボジアの先生に「先生としての意識改革と生徒によく分かる授業の仕方」を教え、日々の授業で実践する事が急務である。

(4) 指導力向上の年間計画作成に当たっての考え方

◎カンボジアの先生の指導力の向上のために、{生徒によくわかる授業の仕方・4項目}を理解させること。SWSFCが指導する1年間に、全員の先生が、理解した4項目を元に授業実践をして、放課後の研究会で話し合い指導を受ければ、更に理解が深まり、生徒によくわかる授業ができる。

SSFCの住田が模範授業をして4項目を実践指導すれば、先生の指導力は向上し身に着くと考える。その結果、カンボジアの先生は

「生徒によくわかる授業が出来、日々生徒の学力は定着し、年間を通して高い学力を身に着けることが出来る」と考えて年間計画を作成した。

「生徒によくわかる授業の仕方・4項目」とは

- 1項目：授業を行うに当たって、「事前の勉強や準備」をどのようにしたか
- 2項目：授業の初めに「生徒に興味・関心を持たせる工夫」をどのようにしたか
- 3項目：授業の中で「生徒に考える力を身に付ける指導」をどのように取り入れたか

4項目：授業の終わりに「生徒の理解度の評価」をどのように取り入れたか

(5) 指導力向上支援の年間計画を次のように立て、実践した

SSFC の支援説明は 2016 年 1 月と 2 月に行った。第 1 回目から最終回の授業発表会まで「全 7 回で完結するプログラム」を立てて実践した。2017 年度は第 1 回～第 5 回まで行った。指導内容と日時は以下の通り。

第 1 回 2017 年 4 月・学校調査及び SSFC の説明 ①教育省・州教育局で調査②SSFC の活動説明③授業参観・研究会

第 2 回 2017 年 6 月・SSFC の目指す授業の理解①プログラムの進め方の説明②先生へのアンケート③授業参観・研究会

第 3 回 2017 年 9 月・模範授業の開催①先生を生徒にして授業を見せる②研究会（指導案・指導力向上 4 項目の手引書配布）

第 4 回 2017 年 11 月・模範授業の開催①先生も参加して、生徒に実施②研究会で説明、質疑応答（指導案・4 項目の資料配布）

第 5 回 2018 年 1 月・現地の先生の授業実践① 7 人の先生の授業参観②研究会（授業の流れと指導力向上 4 項目を中心にして）

（第 6 回）2018 年 4 月・現地の先生の授業実践の習熟① 7 人の先生の事業参観②研究会（授業の流れと指導力向上 4 項目を中心にして）③研究発表会の準備

（第 7 回）2018 年 7 月・研究発表会①授業発表会（午前中）②研究発内容の発表全体会③教科毎の研究発表

*2018 年 6 月 10 日～18 日まで、アライン・ランサイ中学校の授業発表会の準備を行うための指導に行った。

2-2 指導環境の整備の支援

(1)教材教具の支援

2017 年度は以下の理由で教材教具の配賦は行わなかった。次年度から先生から要望が出てきたら、検討し配賦する。

①授業が教科書を読む、教科書の文章を書きとる等、教科書中心で行われていたので、図鑑や事典等の必要性を先生が感じていなかった。

②研究会で先生の授業内容と「生徒によくわかる授業の仕方」について会を重ねて話し合う内に、先生の考え方が次のように変わってきた。

○生徒に課題を与えて答えを出させても、答えは教科書に書かれている文章だけなので、話し合いにならない。他に資料があると多くの意見が出て話し合いが深まると思う。

- 私たち教師でも、実験等したことも見たことも無いので、実験道具が欲しい。
まず私（先生）が正しい実験の仕方を覚えたいと思う。
- 授業では、教科書に書いてあることを生徒に覚えさせる事で良いと思っていた。考えさせることを授業で教えなかった。生徒に考えさせ、正しい考えを実験して実証することが大事だと良く分かった。
- 先生が勉強して、基本を教えることが大事だと良く分かった。
- (2)理科室・図書室の設置、校舎建設等
2017年度は要望が無いため、支援は行わなかった。

3 広報・募金について

- (1) 広報：SSFCの活動パンフレットを作成し、PRのために配布した。
- (2) ホームページの作成し、公開した。
- (3) 企業や個人を訪問して、募金活動をした。

平成29年度事業報告の附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年6月

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia